

発議第1号

議員派遣の件について

上記議案を地方自治法第100条第13項及び、みなかみ町議会会議規則第129条の規定により、別紙のとおり提出します。

平成27年3月10日 提出

みなかみ町議会議長 河 合 生 博

議員派遣の件

次のとおり、議員を派遣する。

1. 山岳トイレ先進地視察

- (1) 目的 谷川岳山岳トイレ整備に資するため
- (2) 派遣場所 鹿児島県屋久島町
- (3) 期間 平成27年3月22日(日)から3日間
- (4) 派遣議員 山田 庄一、原澤 良輝

平成27年第1回(3月)みなかみ町議会定例会請願文書表

番号	請願件名 請願趣旨	請願人 紹介議員	受理年月日 付託委員会
請願第1号	国保税引下げと早期県への移管に関する請願書	群馬県利根郡みなかみ町藤原 藤原中区长 雲越利雄 群馬県利根郡みなかみ町小川 小川区長 石坂 幸男 群馬県利根郡みなかみ町須川 笠原区长 阿部 裕司 中島信義・鈴木初夫・阿部賢一	平成27年2月16日 厚生常任委員会
	<p>【請願趣旨】</p> <p>日本の保険制度は皆保険制度が基本で国民健康保険は、地域住民の医療の確保と健康の保持増進に大きく貢献し、町民の安心、安全な生活を守るうえで大きな役割を果たしてきました。しかし、国民健康保険を取り巻く状況は加入者の年齢構成が高いために医療費の水準が高いこと、医療の高度化、等により医療費の伸びが急激に進んでいます。</p> <p>みなかみ町は、20年度は前期高齢者交付金が約2億円と少なく、平成21年に保険税の引き上げをしましたが、21年度は約5億円、22年度は約8億円、23年度は約5億円と当初の予想以上に多くの交付金が入りました。また町民に対して健康についての啓蒙を図るなど、町民の協力を得ながら今日まで運営をしています。現在の運営は市町村単位で運営されていますが、高齢化、人口減少が著しい地方、山間地域では、保険税の値上げをしなければならない状況にあります。</p> <p>社会保障制度改革プログラム法を受け、次期医療保険制度改革においては平成30年度に国民健康保険の都道府県への移管が予定されています。</p> <p>みなかみ町の運営状況を見ると保険税の引下げをしても安定した運営ができる状況にあると思います。保険税の引き下げと、運営主体を早急に県へ移管するよう請願いたします。</p> <p>【請願事項】</p> <p>1. 国民健康保険税の引き下げを図ること</p>		

平成27年第1回(3月)みなかみ町議会定例会請願文書表

番号	請願件名	請願人	受理年月日
	請願趣旨	紹介議員	付託委員会
請願第2号	老人福祉施設の適正配置についての請願	みなかみ町石倉 150-1 社会福祉法人 志純会 理事長 入内島 一崇	平成27年2月18日
		森下 直・久保 秀雄 阿部 賢一・中島 信義 鈴木 初夫	厚生常任委員会
<p>【請願趣旨】 みなかみ町は将来、少子高齢化の影響で、急速な人口減少と介護労働力の不足に陥ると予測されております。 この危機を乗り越えるべく、町当局をはじめ、関係機関において、平成27年度から3カ年の老人福祉計画（施設整備計画）が検討されているところであります。 願わくは、町議会におかれましても、将来、人口減少により町の老人福祉施設が過剰となり、既存の町内の福祉関連事業者がその運営に窮する事態とならぬよう、また、地域バランスに御配慮の上、老人福祉施設の種別と規模に関して適正な配置を十分に御審議・ご採決いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>【請願事項】 老人福祉施設の適正配置。</p>			

平成27年第1回(3月)みなかみ町議会定例会請願文書表

番号	請願件名 請願趣旨	請願人 紹介議員	受理年月日 付託委員会
請願第3号	年金引下げの流れを止めることを国に求める請願書	前橋市樋越町183-4 全日本年金者組合群馬県本部 執行委員長 女屋 定俊 沼田市上沼須町643-6 全日本年金者組合群馬県本部利根支部 支部長 林 マツ 原澤良輝	平成27年2月19日 厚生常任委員会
	<p>【請願趣旨】</p> <p>地域住民の安心安全のために日夜努力されている貴職に敬意を表します。さて、下記のような切実な声があげられています。</p> <p>「毎年、あなたの年金は〇〇円になりました、と案内が来ますが、見るたびに減っており、見るのが怖いのです。乏しい年金からこれでもかというくらい各種引き落としがあり、アルバイト生活を余儀なくされています。そのバイトも旗振りや掃除、介護等、高齢者にとってきつい仕事しかありません。食べていけるだけの年金を保障してください」</p> <p>全日本年金者組合は、2014年夏から冬にかけて「年金削減中止、最低保障年金制度実現」を求める請願運動をおこない、29万余筆の直接請願署名を提出しました。その署名用紙の(ひと言)欄に書かれた文です。群馬県の年金者の切実な声です。</p> <p>政府は、口を開けば「少子高齢化社会の到来」を言い立て、「社会保障は削減されても仕方がない」と主張します。消費税増税の理由も「社会保障の財源を確保するため」としています。しかし、消費税が増税された昨年4月から医療費負担の増大、介護費用も高くなっています。その上、高齢者の生活を支える年金支給額も毎年のように引き下げられています。「何が社会保障のための消費増税か」と言いたいのです。</p> <p>「百年安心」をうたった2004年の「年金改革」の年から、年金支給は合計で3%(2004年に0.3%、06年0.3、11年0.4、12年0.3、13年1.0、14年0.7%と6回も)も引き下げられています。「安心」どころか、「年寄り早く死ね」と言わんばかりの仕打ちです。その引き下げと合せて年金支給年齢を現行の65歳支給から70歳に遅らせたり、年金保険料納付期間を60歳から65歳まで延長したりしようすることも計画されています。なんとひどいことでしょう。「自動年金削減装置」といわれる「マクロ経済スライド制度」も今年4月から実行しようとしています。まさに年金改悪のオンパレードです。</p> <p>こんな政治が行われれば、若者も希望を失ってしまいます。たしかに、高齢者が増加する社会になります。これは社会が安定して、医学などが発展すれば起こることです。少子高齢化は、先進諸国で共通していることです。このような中でも、年金制度をはじめ社会保障の充実を政治の中心にすえる先進国は多くあります。経済大国といわれる日本で、人間を大事にする政治ができないはずがありません。政治は将来の希望を示す道です。高齢者を絶望させ、若者の希望を奪うのは政治ではありません。</p> <p>また、年金が地方自治体の財政にとって重要な財源になっています。地方が政府に対して「年金削減を止めろ」と声を上げることは、地域に生きる住民が安心して生きられる社会をつくることです。同時に地方自治体の財源確保にも大きな役割を果たさずにはなりません。</p> <p>貴議会が高齢者に対して優しい自治体づくりをめざすために下記の意見書を採択をすることを求め請願いたします。</p> <p>【請願事項】</p> <p>「年金引下げの流れを止める」意見書を採択し、それを国に提出すること</p>		

平成27年第1回(3月)みなかみ町議会定例会請願文書表

番号	請願件名	請願人	受理年月日
	請願趣旨	紹介議員	付託委員会
請願第4号	町道栗沢西線、上の原の除雪の推進及び消雪施設等の早期実施に関する請願書	みなかみ町藤原5070 みなかみ町藤原上区長 中島 伸一 みなかみ町藤原3765 みなかみ町藤原中区長 雲越 利雄 みなかみ町藤原851 みなかみ町藤原下区長 林 明男 みなかみ町藤原1899 株式会社宝川温泉汪泉閣 代表取締役 小野与志雄 みなかみ町藤原6152-1 水上高原スキーリゾート 総支配人 小関 正浩 みなかみ町藤原4957-1 藤原スキー場 代表取締役 松本 亨太 みなかみ町藤原3839-1 宝台樹スキー場 所長 林 勝久 中島 信義・小林 洋	平成27年2月19日 産業観光常任委員会
	<p>【請願趣旨】</p> <p>町道栗沢西線、上ノ原線は、地域住民の生活道路として、また、観光道路、観光客のアクセス道路としても大変重要な役割を担っており、冬期における除雪につきましては大変ご配慮をいただいているところです。</p> <p>しかし、今冬は、異常気象とも思えるような強い降雪、強風など荒天が続いていることから、連日多大な除雪作業を実施されているものの路面確保は難しく、道路の積雪、凍結による車両のスタックやスリップ等による事故が多発しています。</p> <p>そのため、地域住民の生活に大きな支障が生じているとともに、観光客の安全も脅かされていることから、雪道でアクセスが容易でないとの風評も芽生え、宿泊施設やスキー場の経営も大きな影響を受けております。このことによる藤原地区の損失、イメージダウンは計り知れないものがあります。</p> <p>つきましては、地域住民の生活確保をはじめ、みなかみ町の観光客の多くを占める冬期のスキー場入場者や宿泊者の安全確保のためにも、除雪の更なる推進をお願いいたしますとともに、根本的な解決策となる消雪施設等の早期実施についてよろしくお願い申し上げます。</p> <p>【請願事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 町道栗沢西線の藤原トンネル水上側入口付近に係る除雪の推進及び消雪施設等の早期実施 町道上の原線の乙女坂（通称）、藤原小中学校入口付近、小坂（通称）に係る除雪の推進及び消雪施設等の早期実施 		

平成27年第1回(3月)みなかみ町議会定例会請願文書表

番号	請願件名	請願人	受理年月日
	請願趣旨	紹介議員	付託委員会
請願第5号	風和の湯源泉排湯の活用についての請願書	上牧温泉旅館協同組合 群馬県利根郡みなかみ町 下石倉 229 番地 石坂 欣也	平成27年2月26日
		小野 章一	産業観光常任委員会
	<p>【請願趣旨】</p> <p>この様に陳情をする機会を与えていただきましてありがとうございます。 また、議会におかれましては、観光業に対し心ある御支援や施策の数々を支援していただき感謝の言葉もありません。 皆様もご存じのように、都会では安倍政権の景気対策で景気の向上がうたわれていますが、地方ではほとんど感じる事ができないのが現実であります。 そして、観光業はみなかみ町の主要な基幹産業であり、これからの宿泊業を取り巻く環境を考えると厳しい面も多々ございます。 特に、私ども宿泊を生業にする専業事業者にとり、新興勢力である日帰り温泉との競合、差別化は急務であり、上牧温泉の様な古くからの温泉郷では、温泉の質や湯量の多さをうたい、更なる上牧地域での集客を行い、他業種への経済波及を行うのはもちろん、数少ない就業の場の確保で地域の振興をこれまで以上に行う所存であります。 そこで、上牧温泉旅館協同組合は、予てより風和の湯で余った源泉水を利根川に排湯してまいりましたが、資源とし排湯を源泉としての活用し、更なる地域おこしと集客、地域振興策に成るよう、組合が中心となり責任をもって取り組んでまいります。そして、配湯の利用による上牧温泉のブランドの向上や更なる集客で上牧地域のみならず、みなかみ町の誘客全体に好影響と効果をもたらすよう研鑽してまいりますので、上牧温泉風和の湯の源泉水の排湯の活用をさせていただくことと、そのご支援をお願いしたく請願いたします。</p> <p>【請願事項】</p> <p>上牧温泉旅館協同組合は、上牧温泉の更なる集客と地域の振興及び活性化を実現するため、風和の湯より河川に排湯された源泉を、組合で活用させて頂きたい。</p>		

平成26年第6回(12月)みなかみ町議会定例会陳情文書表

番号	陳情件名	陳情人	受理年月日
	陳情趣旨		付託委員会
陳情 3 号	猿ヶ京温泉にサッカー場を建設する陳情書	みなかみ町猿ヶ京温泉 1132-5 猿ヶ京区長 田村 清	平成26年11月18日 産業観光常任委員会
	<p>【陳情趣旨】</p> <p>民間団体「日本創成会議」の試算では将来人口減少で896市町村が消滅する可能性があるとした試算をしました。地方の重要性を重く見て、政府は「まち・ひと・しごと」を基本に地域創生本部を設立し方針を提示しました。「地方のことは地方が主体的に考え実行していく。その応援を国はします」と石破大臣は言っておられます。これら政策を具現化するためいち早く、みなかみ町では、町づくりビジョン策定委員会を設置したと伺っております。猿ヶ京温泉は景気低迷の影響が続き、存続すら危ぶまれる状況にあります。しかし、諦めと悲観論では解決できず、今生きる我々は、先祖の時代から引き継いだこの地域と温泉地を恒常的に発展させて次世代に引き継ぐ責任があります。</p> <p>現状を正しく認識し、与えられた資源を有効に活用する知恵と勇気が大事であり、できることから行動を起こすことが肝要であると思います。</p> <p>そこで猿ヶ京区民は地域を再生し、住む人・訪れる人にとって快適な温泉地を創造するために、かねてより「猿ヶ京活性化委員会」を組織して活性化に取り組んでいます。その活動状況は、猿ヶ京区民が耕作放棄地に花を植え、蕎麦をまき、蛍の育つ環境を整備し、さらには採草地の大多和牧場に樹木や花の植栽等に汗を流しています。また、みなかみ町の所有する鶏舎跡地を有効活動するため周辺土地を含めサッカー場開発の調査研究等を行っています。しかし地域が取り組む事業活動には時間や予算等に限度があります。今日まで他区より高額な区費を区民にお願いして取り組んできましたが、事業量的にも区行政で対応するのは限界があります。</p> <p>つきましては、下記の陳情事項を事業実施計画に取り入れていただき、猿ヶ京温泉の再開発をして実現して下さるよう区民を代表して心よりお願い申し上げます。</p> <p>【陳情事項】</p> <p>(1) 町所有の鶏舎跡地並びに周辺民有地を含めサッカー場を建設してください。</p> <p>(2) サッカー場にはサッカー用クラブハウスを建設してください。</p>		